

富士山国有林におけるニホンジカの新しい捕獲手法

（誘引捕獲：シャープシューティング）の検討

関東森林管理局

静岡森林管理署 主任森林整備官 松坂 勝士

茨城森林管理署 主任森林整備官 漆道 真也

1 はじめに

富士山は裾野がなだらかな地形で、東側には自衛隊の東富士演習場、西側には牧草地が所在し、ニホンジカの生息に非常に適した地域となっています。そのため、ニホンジカが近年著しく過密化し、当署管内の富士山国有林及び国有林に隣接する森林や牧草地において、食害による甚大な被害が発生しています。

これまで当署では、剥皮防止ネット及び金網柵等の資材による樹木の保護や地元猟友会に依頼して捕獲（巻き狩り）する対策を実施してきましたが、被害は収まらず、むしろ拡大、深刻化が進んでしまいました。また、平成 25



写真-1 富士山周辺の航空写真



写真-2 ニホンジカによる剥皮被害写真①



写真-3 ニホンジカによる剥皮被害写真②

年6月の富士山の世界文化遺産登録に向けて、また登録にあたり富士山の自然環境や景観の保全が求められるなか、有効な頭数調整手法が必要とされています。

そこで平成23年度より、当署自ら積極的に参加し、また捕獲方法についても新しい捕獲手法として国有林で初の取組となる誘引狙撃法を試行的に導入してニホンジカの捕獲に取り組むこととしました。

2 具体的な取組

(1) 検討委員会の設置

「富士宮市鳥獣被害防止対策協議会」を核として、静岡県、富士宮市等の関係市町、猟友会、農業・林業団体、静岡森林管理署、学識経験者（静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター、（独）森林総合研究所等）によって、「検討委員会」を設置し、実施方法、協力体制、関係機関との調整を行い、射手については、高い射撃技術とニホンジカの捕獲経験豊かなNPO法人「若葉」に依頼しました。

(2) 実施方法

模式図は図-1のとおりです。

林道沿いで、林道から約10m～50m位の箇所、19箇所に給餌場を設置し、誘引狙撃開始日約1ヶ月前の12月末から毎日午前中に、乾燥した草をブロック状に固めた餌（ハイキューブ）を1箇所に1kg～2kg供給しました。



図-1 誘引狙撃（シャープシューティング）模式図

その給餌場において、自動センサーカメラを設置し、ニホンジカの集まり具合、出没時間、頭数等を把握しました。

射手は2組がそれぞれ東西のエリアに分かれ、林道上を車輛で移動し、給餌箇所の前で停止後、ライフルで捕獲作業を実施しました。捕獲時間は正午から日没前の17時頃までとしました。

誘引狙撃は平成24年1～2月にかけて計6日間実施しました。

(3) 実施の留意点

①【車輛からの狙撃等の合法性の確保】

土地及び林道管理者として、林道の通行を遮断することにより、道路としての機能を発揮させないこと、一般者の立ち入りが無いよう監視すること、射手は車輛が止まってから銃弾を装填し狙撃することを確実に実施することとし、関係機関に説明しました。

②【安全の確保】

関係者に対し周知文書を送付、事前に立ち入り禁止看板及びトラロープを設置し、実施日は、協議会の構成員が協力して、林道の入り口等に6名の監視員を配置、当日は、関係者の連絡体制を徹底しました。

③【給餌活動】

(独)森林総合研究所が作成した給餌プログラムに沿って、毎日の給餌活動を継続的、効果的に実施しました。

④【捕獲作業(狙撃)】

実施時間の設定と除雪等を行い、車輛の移動が円滑に行くように配慮しました。

3 取組の結果

給餌により早い箇所では3日目で餌付き、捕獲初日までにほぼ全ての給餌箇所ですべて餌付けに成功しました。捕獲は計6日間行い、射撃した群れの内、5割強が群れ全体を捕獲し、計73頭を捕獲しました。

これは、1日1人あたり9.7頭を捕獲したことになり、給餌等を除いて単純に捕獲頭数のみを比較した場合、この数字は一般狩猟の約40倍の捕獲効率となりました。

表-1 誘引狙撃(シャープシューティング)による捕獲頭数

実施日	遭遇 群れ数	射撃 群れ数	捕獲数	群れ全体 捕獲件数	群れ全体捕 獲件数/射 撃群れ数(%)
1月12日	12	7	9	3	43%
1月22日	13	6	6	4	67%
1月28日	28	16	20	5	31%
1月29日	25	19	19	14	74%
2月11日	11	8	7	5	63%
2月12日	15	12	12	7	58%
計(6日)	104	68	73	38	56%

(1) 成功のポイント

① (独)森林総合研究所等が開発した給餌プログラムにより、少量の餌を、毎日、定時に給餌することが日常化できたこと

エリア別の誘引効果は、ササありの西エリアに比べ、ササなしの東エリアのほうが餌付きがよく、さらに1月中旬からの積雪により餌環境が悪くなると西エリアにも餌付きが始まりました。

その結果、捕獲期間中は捕獲を繰り返しても全ての餌場で餌付いた状態が続き、高い捕獲率を維持することができました。



写真-4 ヘイキューブを採食するニホンジカ

② 優秀な専門的捕獲技術者を選抜したこと

「野生動物捕獲専門のNPO法人若葉」に依頼して実施しましたが、立木の多い見通しが悪い条件であっても、正確に群れの構成把握を行い素早く狙撃順序を決定し、5秒以内に精密に連射ができる卓越した狙撃技術があつてこそ成功したものといえます。

③ 森林管理者、研究者、捕獲技術者、協議会が情報を共有し連携しながら進めるシステムを構築したこと

森林管理署は、安全管理の徹底等を行い、研究者は最新・最適な手法の提案を行い、協議会のメンバーは監視員として協力し、捕獲技術者は最高の技術を提供し、それらの調整等を森林管理署が主導的に行い、「チーム富士宮」を結成し、うまく機能したことが成功の大きな要因であったと評価されます。

(2) 留意すべき点

① 適地・不適地の条件

写真-5 のようにササが多箇所は誘引がしにくく、また見通しが悪いいため群れを全滅できず狙撃に不適であることが分かりました。

② 構成把握・狙撃順序の判断

写真-6 のようにスマートディアを増やさないためには「正確に構成把握を行い狙撃の順序」を決定し、いかに「安全に全頭捕獲をなしえるかが重要であるか」ということが分かりました。

(3) 留意点を踏まえた24年度の対応

① 誘引狙撃に不適地の対応

23年度の実施結果を踏まえて、ササが多い地域は誘引がしにくく、また見通しが悪いいため群れを全滅できることが難しい誘引狙撃に不適地では、忍び猟及びくくりわな（猟友会によるわなチームも参加）を併用し、8月末～11月末にかけて



写真-5 ササが多いエリア

の約3ヶ月間で355頭捕獲することができました。

② 誘引狙撃に適した地域

ササや雑灌木が少なく、餌が少なく見通しが良い誘引狙撃に適した地域では、誘引狙撃について「3頭以下の群れだけを確実に全頭捕獲する方法」をとり、さらに安全性を高めた上で拡充し計12回実施し199頭を捕獲しました。

4 まとめ

(1) 誘引狙撃

誘引狙撃の実施は、森林管理署、研究者、捕獲技術者等が一体となったチームを形成し、優秀な捕獲技術者と協力・連携しながら万全な体制で臨んだことから大きな成果を挙げることができました。

本方法は、①効率的な捕獲が可能、②妊娠期にメスジカを狙い撃ちが可能、③高い安全性を確保でき、④群れごと捕獲することで警戒心の強いニホンジカをつくらず、継続的に実施可能である等の利点を有し、個体数管理に有効な方法であることが実証できました。

一方で下層植生が多く、餌が豊富な射撃の不適地では、十分な効果を発揮できなかったこともわかり、地域の自然条件やシカの警戒心の度合いに応じた多様な捕獲手法を組み合わせることが頭数調整に有効であることが実証できました。

このように23年度からの3年間の結果を踏まえ、「実施の手引き」の作成を行う予定にしており、富士地域だけではなく、地域の条件や実情に応じた捕獲方法の選定ができるものとし、あらゆる地域で効率的なシカ対策ができるような一助とできればと考えています。



写真-6 構成把握・狙撃順序の判断

成功の秘訣：チーム富士宮！

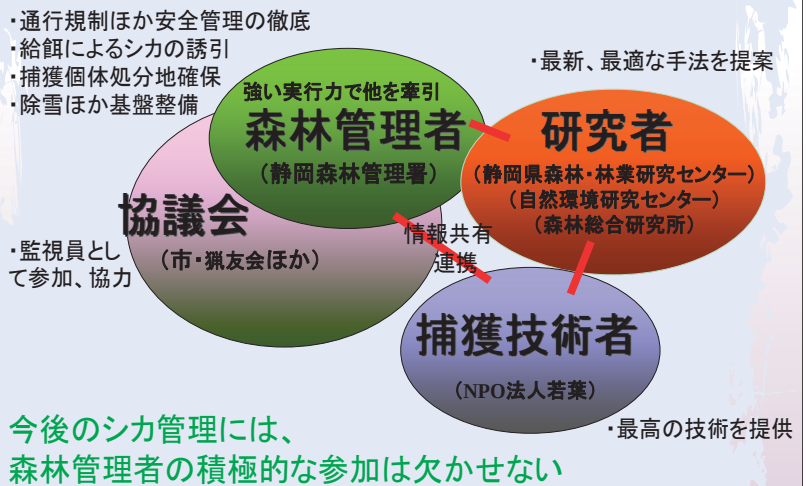


図-2 連絡体制図

(2) 広域的な対策

富士山地域は静岡県と山梨県の両県に位置し広範囲であり、広大な牧草地や自衛隊演習場に囲まれ餌が豊富で、全体の捕獲圧が不足している状況です。

また、高度な狙撃技術を有した捕獲団体の育成及び確保が求められています。

このような状況のため、1区域だけでの頭数調整ではなく、今後は、自衛隊を含む国、静岡県、山梨

県、市町村や関係団体が専門的捕獲技術者や猟友会と一体的にシカ対策に取り組み、富士山の環境を保全管理する必要があると考えます。

このような多くの課題の解消に向けて、関東森林管理局と（独）森林総合研究所とのニホンジカ被害対策に係る協定の締結をしてシカ対策に取り組むこととしています。

また、「富士山地域におけるニホンジカ対策に係る情報連絡会」を設立し、関係機関との相互連携を図りながら誘引狙撃を含めたさらなるニホンジカ対策の推進に取り組んでいきたいと考えています。

※誘引狙撃法

アメリカ等で実施されている「車輛を使って給餌場を移動し、ライフルで捕獲する手法。群れの優位な個体から頭や首をライフルで撃ち即倒させ、全頭捕獲することで「警戒心が強く捕獲しにくいシカ」の発生を避けるために生み出された手法。